

「保険で良い歯科医療」をめざす

市民フォーラムで噛める幸せ学ぶ

患者と歯科医療担当者が共同して運動をすすめている「保険で良い入れ歯を」

全国連絡会は、七月十五日に東京新宿の三省堂文化会

館で第五回総会を開催、³⁰ 館市民も含め五十人を超える参加者があった。

一般市民にも参加を呼びかけた第一部「噛める幸せを考える市民フォーラム」³¹では、渡辺郁馬氏（元東京都老人医療センター歯科口腔外科部長）が「義歯も含めて常に二十八本噛める歯を」と題した講演が行われた。

講演後の質疑で、参加者

から「歯磨きの大切さはよく分かったが、歯ブラシはどういうものを選んだらよいのか」「ガムはかんだほうがよいのか」「入れ歯で悩んでいるが、歯科医療機関は」というところがよいのか」などの質問が寄せられた。

第二部の総会では、前総会以降の二年間の連絡会の成果と教訓を明らかにし、今後一年間の方針を確認し

た。

た。また、連絡会の運営の「申し合せ」事項を決定し、新たな世話人の選出が行われた。

「保険で良い歯科医

療を」連絡会に名

20変更

30

この間の取り組みで、入れ歯問題だけでなく、老人医療の定率一割負担反対や就学前までの乳幼児医療の無料化など幅広い取り組みを進めてきた経緯と教訓を踏まえて、団体の名称は「入れ歯連絡会」から、「保険で良い歯科医療を」全国連絡会へ発展変更することが確認された。

討論では、歯科医師、歯科技工士など医療担当者の側から歯科医療の問題点がそれぞれ立場から指摘され、改善のためには患者、国民など医療を受ける側の理解と協力が不可欠、との認識が共通して出された。⁴ また、婦人団体の参加者からは、子どもを育てる親にとっては乳幼児医療の無料化は切実な要求。その実現のために連絡会と協力した運動を取り組みたい、とのがあり、熱気あふれる総会となった。



35

40

45

新たな運動の方向を確認した「入れ歯連絡会」の総会

15

10

5